

平成30年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495300186	事業の開始年月日	平成23年12月1日
		指定年月日	平成23年12月1日
法人名	株式会社生活科学運営		
事業所名	宮崎台つどいの家 グループホーム		
所在地	(213-0035) 川崎市高津区向ヶ丘136-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年10月8日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者一人ひとりのできること、得意なこと、苦手なこと等を把握し、できることは入居者自身でやって頂くように促し、各々の認知症に合わせた支援を行っている。認知症による周辺症状に対して、事前にアプローチを行うことで、トラブルに繋がらないように工夫している。
②法人独自の介護予防体操(スイッチオンケア)の導入し、入居者本人が持っているが眠ってしまっている身体の機能を起こすことにより転倒予防や立ち上がりを楽しむなどの様々な効果を発揮している。
③家族との交流を大切にし、家族としてできる役割を積極的に行っていただくように依頼している。
④20代～60代まで幅広い年齢層のスタッフが働き、退職率0%に留め入居者対応をスムーズに行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	平成30年11月13日	評価機関 評価決定日	平成31年1月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、東急田園都市線宮崎台駅から徒歩15分、あるいは梶が谷駅からバスに乗り、「しばられ松」バス停から徒歩2、3分の住宅地にあります。2階建ての建物に同法人の看護小規模多機能型居宅介護事業所を併設し、日々連携を図っています。

<優れている点>

常勤・非常勤を問わず半数の職員が介護福祉士の資格を持っており、離職率も低い
ため、利用者との馴染みの関係をつくり、安心・安定した支援を行っています。運営
法人からも表彰されています。さらに事業所内勉強会や外部研修の受講のほか、全
職員が毎年目標シートを作成し、年3回、管理者面談で達成度を確認する仕組みをつ
くり、スキルアップを図っています。「あきらめない・あきらめさせない・自遊な
暮らし」の事業所理念に基づいた、その人らしい暮らし、生き方により近づくため
に、事故防止安全対策兼身体拘束廃止、行事担当といった各種委員会活動にも力を
入れ、利用者の生活を支えています。また、事業所は地域とのつながりを大切に考
え、定期的な「つどい(認知症)カフェ」開催、キッズサポーター養成講座、ボラ
ンティア受け入れなど、積極的な活動を通し、認知症の理解促進に努めています。

<工夫点>

入居時に重度化した場合の対応指針の説明をし、要望書の提出を依頼しています。
今後の状況変化を見据え、今年度は全家族に意向の再確認をしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	宮崎台つどいの家 グループホーム
ユニット名	グループホーム1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	面接時、入社時に当社理念である地域コミュニティの説明を行い、地域ボランティア導入や民生委員、地域包括支援センターと連携、また運営推進会議の案内をだし、定期的な連絡の場を持っている。	「あきらめない・あきらめさせない・自遊な暮らし」を事業所の理念としています。毎年、理念に基づいたフロアごとの方針を決め、取り組んでいます。毎月のフロアミーティング時にケアの振り返りに合わせ、理念やフロア方針の再確認をする場合もあります。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会への入会。入り口に木のベンチをどなたでも休めるように設置している。近くの保育園や小学校との交流を深めている。地域・ボランティア委員会を設置し積極的に交流に努めている。	町内会のごみ拾いや、子ども食堂に職員が参加協力をしています。保育園とは七夕や敬老会で交流しています。ボランティアや小学生の職場体験を受け入れ、交流しています。「つどい（認知症）カフェ」には利用者も参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターや地域の方々と連携し、つどい（認知症）カフェを共催している。また、認知症サポーター養成講座を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議において、スタッフ、入居者、家族、包括や民生委員と共に認知症、意見交換（座談会）を行い、日々の業務へ活かしている。	運営推進会議は、利用者、家族、2つの地区の町内会長、3ヶ所の地域包括支援センター職員、区役所職員など多くの関係者が集い、2ヶ月ごとに開催しています。参加者から認知症についてのテレビ番組の内容紹介があり、学ぶ機会を得ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	各種行政には質問事項等があれば連絡を取っているが、こちらの取組みを積極的に伝えることはしていない。包括については運営推進会議を通じて連携をとっている。	区の担当者や地域包括支援センター職員とは運営推進会議などで意見交換をしています。全国グループホーム協議会の会合に参加しています。市主催の自立支援講習には管理者やケアマネジャー、サブリーダーが参加し、衛生講習には全職員が交代で受講するようにしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本姿勢としては身体拘束は禁止、一緒に付き添うことで対応しているが退院後やむを得ず一時的に実施することにはある。その際は、都度委員会を開催し身体拘束を終息できるよう話し合いを実施している。	身体拘束廃止マニュアルを定め、事故防止安全対策委員会兼身体拘束廃止委員会を毎月開催し、身体拘束をしないケアについて検討しています。一時的にベッドに柵を設けた時も法令に則った対応をし、利用者の状態が安定後速やかに解除しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束、高齢者虐待については勉強会を実施し、どのようなものが高齢者虐待になるのかを学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度の仕組みを説明し、過去に無事締結された事例あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は必ず2名体制で行い、不安や疑問の残らないようにしている。また、変更等があった場合には、運営推進会議、書面で報告した後に変更を実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	基本的には電話、対面等でいつでも要望を聞く体制をとっている。また、ハウス外にも相談窓口があるため、外部への相談も可能であることを契約時に案内している。ご意見のあった場合には職員に周知し、改善を図っている。	玄関に「ご意見箱」を設置しています。家族からの相談や苦情は「家族との相談実施記録」に記録して周知・改善に努めています。重要事項説明書で契約時に事業所以外への相談ができる旨を説明しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の目標設定や個別面談等を実施し、業務に対しても目標設定、個人の意見、提案、要望等は聞いている。	毎月のフロアミーティングのほか、毎日15分ほどの「もんじゅ会議」においても積極的に意見、提案を出し合っています。これらの意見を踏まえてルーチンワーク表を変更し、改善につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上記同様。家庭の事情などでの要望などの個人の事情は可能な範囲で聴くようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常的な業務の中で職員一人一人の力量は把握できている。また、勉強会を月1回程度実施、外部研修については職員へ案内し、パートを中心に参加希望をとった上で可能な限り、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	弊社他事業所の相互交流は、リーダー格スタッフは、エリア会議を通じて、毎月行っている。今後、パートスタッフも含めて、相互交流を促進していく計画がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始時に運営面談を実施し、本人、家族からの入居後の要望や生活についての希望等をお聞きし、プランへ繁栄させている。その後、入居1か月後を目途にプランの見直しを実施、以後は定期的なモニタリング実施によりプランに反映。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記同様。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何事も本人の気持ちや要望を第一に考え支援している。食事なども可能な限り、一緒に摂り、日常生活の中でコミュニケーションを図っている。また、心身状況に変化に合わせてケアプランの見直しも行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	認知症を持つ家族の苦しみや悩み等について、常に一緒に考え、悩みながら入居者本人を支える関係作りはできている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人、趣味等、これまで入居前に行ってきたできる限りのことを継続していけるように支援の努力をしている。	家族の面会を歓迎しています。友人との同窓会を兼ねて外食に出かける利用者もいます。信仰している宗教関係者と居室で歓談しています。晩酌の習慣については家族や主治医と相談して継続しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が良い関係を築けるよう、できる限りのサポートはしているが、認知症の進行レベルにより難しいこともあるが、入居者同士で会話していることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設への入居により退去した場合には、一定期間家族へ連絡を取り、様子を窺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、個別に話す時間をとるように努めている。また、家族、本人に思いややりたいこと等を定期的に聞き、プランへ反映させている。本人からの聞き出しが難しい時は、家族からの聞き取りにより対応している。	視点を考えることでケアをさらに構築させるためのヒントとなるよう、利用者のプラス面に目を向けた「にやりほっと」を活用しています。音楽好きな人に個人的に音楽療法を取り入れたり、ラーメンが食べたいとの希望に家族の協力を得て実現したりしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の運営面談にて左記のことは聞き取りしている。また、入居後に変更になった状況等はフェイスシート等を更新し、職員間で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	担当者会議以外で、毎日15分程度のミーティングを行い、入居後の心身の状況を把握するようにしている。また、入居後1か月は様子観察を強化し、1か月後のプラン変更反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的な担当者会議や毎日15分のミーティングを実施し、一人ひとりの状況を把握、課題や伸ばしたい面等があればその会議をもとに職員間で共有し、プランへ反映、実施している。	ケアプランは利用者や家族の希望や状況に基づいて長期6ヶ月、短期3ヶ月の目標を設定しています。医師の意見や職員の気づきもプランに反映しています。退院後など、状況が大きく変化した場合は、期間に関わらず見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	週間個人記録、個別記録等から日々の様子を把握し、短時間ミーティングによって話し合いを行い、プランへ反映、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設事業（看護小規模多機能型）からの住み替えや他施設の利用、ボランティアの導入など、その時の状態に応じて適宜、相談し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎月ボランティアスタッフが訪問に來たり、年1回の町会のお神輿との繋がりなど、当時の気持ちを思い出す繋がりを継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医についてはハウス提携医以外での利用も可能で外部主治医の方も数名おり、日々の中で連携を図る努力をしている。	今年度事業所の主治医が変更となっていますが、利用者の医療面でのサポートは変わらずに継続しています。通院は基本家族対応です。家族と一緒に職員も付き添ったり、職員のみで同行支援をしたり、柔軟に対応しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師も全体申し送り、各フロアの申し送りに積極的に参加しており、業務の中で意思疎通が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携の中で、24時間体制で連絡をとれるようにしている。また、双方で改善の必要がある場合には話し合いを実施し、改善に努めている。入院時には入院先とも連絡を密に取り、早期退院が出来るように情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	必要に応じて、要望書を作成し、終末期において希望をそれぞれの家族と面談し、聴いている。また、その際にハウスの方針や協力医療機関で出来ること等を再確認し、変更があればまた話し合いを実施することも伝えている。	入居時に「医療連携加算における重度化した場合の対応指針」で説明をしています。要望書については今年度、全家族に意向の再確認をしています。職員向けの「看取りケアガイド」で研修をし、今後のケアに活かしていく意向です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な勉強会や掲示、協力医療機関との連携などを明示し、安心して動ける体制をとっている。管理者は24時間連絡をとれる体制をとっており、万が一の場合には指示が出せるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練実施、勉強会等を実施。1日3食×3日分の食糧貯蓄はある。	年2回、併設している小規模多機能施設と合同で避難訓練を実施しています。運営推進会議では、出席者に事業所で用意している防災備蓄品の試食をしてもらっています。備蓄品は、リストを作成し、保管管理をしています。	フロアごとの職員が1名になる夜間を想定した訓練実施についての検討も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職業倫理や個人情報保護など、勉強会を実施し、接遇マナーに気を配っているが、慣れや職員一人ひとりの個性の中で完全徹底はされていない。	利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持って接することを基本としています。管理者の注意喚起指導のほか、慣れ合いになり尊厳を傷つけていないか、会議で接遇についてのヒヤリハット事例を出し合い、職員同士で注意をし合うようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向、思いを汲み取り、支援している。自己決定を尊重し、どうやったら実現出来るかを考えることを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事の時間、入浴等、本人のペースを尊重し実施しているが、100%は叶えてあげられていないのが現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行事、外出の際にはいつもと違う、その時々（TPOに合わせて）状況を見て支援している。夏祭り等は希望者には浴衣等も着ていただいている。また、日常的な身だしなみに気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの得意分野の中で、準備、片付け等を積極的にやっていただいている。また、一人ひとりの食事形態を理解し、食べやすい形態で提供している。	食事は手作りで、ユニットごとに献立が違います。利用者も食材の下ごしらえや食器洗いなどできる範囲で手伝っています。利用者のリクエストによる出前、外食、レクリエーションでの流しそうめんなど、食の楽しみの機会を多く作っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1週間ごとに担当スタッフがメニューを作成し、全体バランスを見ながら管理している。メニューの中身については、入居者とも話ながら、希望に沿ったメニューにしている。また、必要に応じて本社栄養士に指導を仰ぐこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、食後、就寝時、口腔ケアの声掛け、支援を行っている。また、外出後にはうがい手洗いの声掛けも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りおむつに頼らず、本人の排泄間隔を大切に支援を行っている。	排泄の自立度の高い利用者は、自分のペースでトイレに行っていますが、職員は全員分の排泄状況を記録し、さり気なく様子を観察しています。支援が必要な場合も、職員の適切な声掛けや誘導で、利用者の現状維持を保つよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄間隔をつかみながら、便秘にならないよう、介護、看護スタッフで協力しながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	支援の必要な方についても、2～3日に1回程度の入浴を心がけ、出来る限りの清潔を保っている。	週2、3回の入浴を支援しています。浴槽の湯は1人ずつ入れ替えており、利用者は皆一番風呂を楽しんでいます。湯船で温まってもらうよう、2名の職員での支援もしています。脱衣所との温度差に気を配っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の入眠時間を大切にしながら、昼夜逆転にならないよう、声掛けを行っている。また、不眠の方や落ち着かない方については、話を聴いたり、安眠出来る工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提携医、薬局、介護、看護が協力しながら誤薬のないよう日々、工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の運営面談にて本人の好きなことや嫌いなこと、得意なことを聞きだし、日常生活内に取り入れている。また、レクについては、お部屋に閉じこもることのないよう、適宜声掛けを行い、実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人達の希望を聞きながら、イベント等で外食や日帰り旅行を実施し、外出の機会を増やしている。希望者は午前中に毎日散歩を行っている。また、外出願望の強い方には個別に散歩を行うようにしている。	天気の良い日は散歩に出かけています。2階にはテラスがあり、気軽に外気浴ができます。花見、バラ、紫陽花といった季節の花鑑賞外出のほか、年に1度の大型バスをチャーターした日帰り旅行は、家族協力もあり、定例化しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を所持し必要に応じて金銭感覚を維持できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	外部からの電話も本人達へ取り次いでいる。また、月1回の家族へのお便りには自筆でコメントを書いてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いた雰囲気となっており、各自がフロアを行き来しながら自由に自分の居場所を選択できるようにしている。	リビングの窓は大きく、観葉植物を置き、明るい雰囲気になっています。床暖房や加湿器で快適性に配慮しています。毎日の清掃のほか、週に一度清掃専門の職員がさらに丁寧に行っています。書道やパステルアートの利用者作品を展示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お部屋、食堂は自由に行き来しており、食堂ソファや浴室前のベンチへの行き来も自由にされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お部屋の家具等は本人の使い慣れた物を持参して頂き、家庭を同様の生活が出来るようにしている。また、食器も使い慣れたものを使用させていただくことで、食事もその方に合わせて対応している。	仏壇、位牌、家族の写真、健康器具などを持ち込み、その人らしい居室になっています。新聞の購読をしている利用者の居室入口には新聞受けを設置しています。環境整備係の職員を中心に、整理整頓や衣類の入れ替えを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特別な造りにはなっていないが、その方に合わせて家具や備品の配置をしている。		

事業所名	宮崎台つどいの家 グループホーム
ユニット名	グループホーム2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			○
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			○
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			○
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	面接時、入社時に当社理念である地域コミュニティの説明を行い、地域ボランティア導入や民生委員、地域包括支援センターと連携、また運営推進会議の案内をだし、定期的な連絡の場を持っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会への入会。入り口に木のベンチをどなたでも休めるように設置している。近くの保育園や小学校との交流を深めている。地域・ボランティア委員会を設置し積極的に交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターや地域の方々と連携し、つどい(認知症)カフェを共催している。また、認知症サポーター養成講座を定期的実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議において、スタッフ、入居者、家族、包括や民生委員と共に認知症、意見交換(座談会)を行い、日々の業務へ活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	各種行政には質問事項等があれば連絡を取っているが、こちらの取組みを積極的に伝えることはしていない。包括については運営推進会議を通じて連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本姿勢としては身体拘束は禁止、一緒に付き添うことで対応しているため、現時点では今後もしない方針		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束、高齢者虐待については勉強会を実施し、どのようなものが高齢者虐待になるのかを学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度の仕組みを説明し、過去に無事締結された事例あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は必ず2名体制で行い、不安や疑問の残らないようにしている。また、変更等があった場合には、運営推進会議、書面で報告した後に変更を実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	基本的には電話、対面等でいつでも要望を聞く体制をとっている。また、ハウス外にも相談窓口があるため、外部への相談も可能であることを契約時に案内している。ご意見のあった場合には職員に周知し、改善を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の目標設定や個別面談等を実施し、業務に対しても目標設定、個人の意見、提案、要望等は聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上記同様。家庭の事情などでの要望などの個人の事情は可能な範囲で聴くようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日常的な業務の中で職員一人一人の力量は把握できている。また、勉強会を月1回程度実施、外部研修については職員へ案内し、パートを中心に参加希望をとった上で可能な限り、参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	弊社他事業所の相互交流は、リーダー格スタッフは、エリア会議を通じて、毎月行っている。今後、パートスタッフも含めて、相互交流を促進していく計画がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始時に運営面談を実施し、本人、家族からの入居後の要望や生活についての希望等をお聞きし、プランへ繁榮させている。その後、入居1か月後を目途にプランの見直しを実施、以後は定期的なモニタリング実施によりプランに反映。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	上記同様。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	何事も本人の気持ちや要望を第一に考え支援している。食事なども可能な限り、一緒に摂り、日常的な生活の中でコミュニケーションを図っている。また、心身状況に変化に合わせてケアプランの見直しも行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	認知症を持つ家族の苦しみや悩み等について、常に一緒に考え、悩みながら入居者本人を支える関係作りはできている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人、趣味等、これまで入居前に行ってきたできる限りのことを継続していけるように支援の努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士が良い関係を築けるよう、できる限りのサポートはしているが、認知症の進行レベルにより難しいこともあるが、入居者同士で会話していることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設への入居により退去した場合には、一定期間家族へ連絡を取り、様子を窺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り、個別に話す時間をとるように努めている。また、家族、本人に思いややりたいこと等を定期的聞き、プランへ反映させている。本人からの聞き出しが難しい時は、家族からの聞き取りにより対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の運営面談にて左記のことは聞き取りしている。また、入居後に変更になった状況等はフェイスシート等を更新し、職員間で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	担当者会議以外で、毎日15分程度のミーティングを行い、入居後の心身の状況を把握するようにしている。また、入居後1か月は様子観察を強化し、1か月後のプラン変更反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的な担当者会議や毎日15分のミーティングを実施し、一人ひとりの状況を把握、課題や伸ばしたい面等があればその会議をもとに職員間で共有し、プランへ反映、実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	週間個人記録、個別記録等から日々の様子を把握し、短時間ミーティングによって話し合いを行い、プランへ反映、実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設事業（看護小規模多機能型）からの住み替えや他施設の利用、ボランティアの導入など、その時の状態に応じて適宜、相談し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎月ボランティアスタッフが訪問に来たり、年1回の町会のお神輿との繋がりなど、当時の気持ちを思い出す繋がりを継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医についてはハウス提携医以外での利用も可能で外部主治医の方も数名おり、日々の中で連携を図る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師も全体申し送り、各フロアの申し送りに積極的に参加しており、業務の中で意思疎通が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携の中で、24時間体制で連絡をとれるようにしている。また、双方で改善の必要がある場合には話し合いを実施し、改善に努めている。入院時には入院先とも連絡を密に取り、早期退院が出来るように情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	必要に応じて、要望書を作成し、終末期において希望をそれぞれの家族と面談し、聴いている。また、その際にハウスの方針や協力医療機関で出来ること等を再確認し、変更があればまた話し合いを実施することも伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的な勉強会や掲示、協力医療機関との連携などを明示し、安心して動ける体制をとっている。管理者は24時間連絡をとれる体制をとっており、万が一の場合には指示が出せるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練実施、勉強会等を実施。1日3食×3日分の食糧貯蓄はある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職業倫理や個人情報保護など、勉強会を実施し、接遇マナーに気を配っているが、慣れや職員一人ひとりの個性の中で完全徹底はされていない。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向、思いを汲み取り、支援している。自己決定を尊重し、どうやったら実現出来るかを考えることを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事の時間、入浴等、本人のペースを尊重し実施しているが、100%は叶えてあげられていないのが現状。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行事、外出の際にはいつもと違う、その時々（TPOに合わせて）状況を見て支援している。夏祭り等は希望者には浴衣等も着ていただいている。また、日常的な身だしなみに気を配っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの得意分野の中で、準備、片付け等を積極的にやっていただいている。また、一人ひとりの食事形態を理解し、食べやすい形態で提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1週間ごとに担当スタッフがメニューを作成し、全体バランスを見ながら管理している。メニューの中身については、入居者とも話ながら、希望に沿ったメニューにしている。また、必要に応じて本社栄養士に指導を仰ぐこともある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、食後、就寝時、口腔ケアの声掛け、支援を行っている。また、外出後にはうがい手洗いの声掛けも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りおむつに頼らず、本人の排泄間隔を大切に支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄間隔をつかみながら、便秘にならないよう、介護、看護スタッフで協力しながら対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	支援の必要な方についても、2～3日に1回程度の入浴を心がけ、出来る限りの清潔を保っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の入眠時間を大切にしながら、昼夜逆転にならないよう、声掛けを行っている。また、不眠の方や落ち着かない方については、話を聴いたり、安眠出来る工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	提携医、薬局、介護、看護が協力しながら誤薬のないよう日々、工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居前の運営面談にて本人の好きなことや嫌いなこと、得意なことを聞きだし、日常生活内に取り入れている。また、部屋に閉じこもることのないよう、適宜声掛けを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人達の希望を聞きながら、イベント等で外食や日帰り旅行を実施している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布を所持し必要に応じて金銭感覚を維持できるように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	月1回の家族へのお便りには自筆でコメントを書いてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いた雰囲気となっており、各自がフロアを行き来しながら自由に自分の居場所を選択できるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お部屋、食堂は自由に行き来しており、食堂ソファや浴室前のベンチへの行き来も自由にされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	お部屋の家具等は本人の使い慣れた物を持参して頂き、家庭を同様の生活が出来るようにしている。また、食器も使い慣れたものを使用していただくことで、食事量もその方に合わせて対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	特別な造りにはなっていないが、その方に合わせて家具や備品の配置をしている。		

平成30年度

目標達成計画

事業所名： 宮寄台つどいの家グループホーム

作成日： 平成 31年 2月 7日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練を実施しているが、昨年は夜間想定での訓練ができず、災害時における地域との連携構築もやや不十分である。	年1回は夜間想定で避難訓練を実施する。 災害時、地域との協力体制を整えていく。	防災委員会で、フロアごとのスタッフが1名になる夜間を想定した避難訓練の計画を立て実地する。 地域委員会を通じ、町内会・学校等と災害時や防災の話し合いの場を設ける。 地域の防災マップの確認・周知を行う。	8ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。